

【5】 都城地区小学校体育連盟 (学校数 42 校、児童数 12,341 人)

I 年間事業について

期 日	曜	会 名 等	主 な 内 容	会 場
5月13日	月	教科主任会	役員改選、研究推進、教職員ミニバレーボール大会検討	東小学校
5月21日	火	第1回常任理事会	研究推進、小中高合同教育研究会指導案検討、教職員ミニバレーボール大会検討、水泳教室計画検討	早水公園体育文化センター
5月28日	火	第1回理事会	研究推進、小中高合同教育研究会指導案検討、教職員ミニバレーボール大会検討	早水公園体育文化センター
6月11日	火	第2回理事会	小中高合同教育研究会指導案検討、教職員ミニバレーボール大会確認、水泳教室計画検討	早水公園体育文化センター
6月14日	金	小中高合同教育研究会		川東小学校 授業者 教諭 川越 友貴
6月29日	土	教職員ミニバレーボール大会		早水公園体育文化センター
7月中		各学校における水泳記録会		各学校
8月21日	水	第2回常任理事会	ポスターセッション検討、陸上運動教室計画検討	早水公園体育文化センター
8月22日	木	第3回理事会	実技講習(体づくり運動)ポスターセッション検討、陸上運動教室計画検討	早水公園体育文化センター
10月10日	木	三股町小学校陸上記録会 前日準備		三股小学校
10月11日	金	三股町小学校陸上記録会		三股小学校
10月24日	木	第4回理事会	都城市・三股町合同教育研究会指導案検討、陸上運動教室名簿・諸準備確認	早水公園体育文化センター
10月28日	月	第70回都城市小学校陸上運動教室 前日準備		都城運動公園陸上競技場
10月29日	火	第70回都城市小学校陸上運動教室 (雨天により中止)		都城運動公園陸上競技場
11月 5日	火	第5回理事会	都城市・三股町合同教育研究会指導案検討	早水公園体育文化センター
12月 6日	金	都城市・三股町地区合同教育研究会 (体育専科教員授業公開)	授業研究会 (研究授業・授業研究会)	西小学校 授業者 教諭 瀬戸山剛介 教諭 杉島 初美
2月25日	火	第3回常任理事会	年間反省、次年度の方向性	早水公園体育文化センター
3月 3日	火	第6回理事会	年間反省、次年度の方向性	早水公園体育文化センター

II 事業部のあゆみ

1 各学校による水泳記録会(7月中)

- (1) 対 象 小学5・6年生
 (2) 実施種目 25m(自由形・平泳ぎ) 50m(自由形・平泳ぎ)

2 陸上運動教室

- (1) 大会名 第70回都城市小学校陸上運動教室／三股町小学校陸上記録会
 (2) 実施日 10月29日(都城市)／10月11日(三股町)
 (3) 会 場 都城運動公園陸上競技場／三股小学校
 (4) 出 場 者 小学6年生
 (5) 実施種目 100m走 200m走 50mH 持久走(男子1000m 女子800m)
 走り高跳び 走り幅跳び ソフトボール投げ 400mリレー

* 都城市の陸上運動教室は雨天により中止。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題及び副題

進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方
～体づくり運動の学習を中心に～

2 主題設定の理由

新学習指導要領での改訂のポイントは、心と体を一体として捉え、生涯にわたる心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現を重視することや、体験的な活動を重視し、「する、みる、支える、知る」のスポーツとの多様な関わり方を取り入れることが主にあげられる。中でも、運動や健康についての自他の課題を発見し、その解決に向けて思考・判断し、それを他者に伝える力を養うことが重要であることが取りあげられている。

特に「運動に親しむ資質や能力」については、運動への関心や自ら運動をする意欲、仲間と仲よく運動をすること、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり、工夫したりする能力、運動の技能などを指して、これらの基礎を確実に育成することが重要となる。これらの資質や能力を育成するためには、児童の能力・適性・興味・関心などに応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり、工夫したりしながら運動の課題を解決する等の学習が重要である。

都城地区では、本地区の教員に対してアンケートを行ったところ、昨年度に引き続き「体づくり運動」の指導の在り方について研究をしていきたいという意見が多かった。そこで、本年度も「体づくり運動」の学習を中心に、進んで学習に取り組み、楽しさを味わう体育科学習の在り方について研究を進めてきた。

研究2年目である本年度は、低学年、中学年で2本の研究授業を行う。その授業を通して、低学年・中学年における体づくり運動の実践を行い、研究主題である「進んで運動に親しむ」ことや、「楽しさ」を感じるための具現化を目指す。都城地区では、「楽しさ」を、動く楽しさ、分かる楽しさ伸びる楽しさ、かかわる楽しさと4つの視点でとらえるようにした。動く楽しさとは、自分に合った場での練習や運動条件を工夫して活動することで、分かる楽しさとは、動き方のポイントが分かることや、動き方の工夫の仕方が分かることとした。そして、伸びる楽しさとは、体の動きが高まったり、動きの種類が増えたり、運動の特性にふれたりすることとし、かかわる楽しさとは、児童同士での教え合いや話し合いをすることとした。

低学年の実践では、「進んで運動に親しむ」「動く楽しさ」を感じるができるように、主体的な姿を実現するための工夫、運動条件の工夫について研究する。中学年の実践では、「分かる楽しさ」「かかわる楽しさ」を感じるができるように、掲示物の工夫、運動条件の工夫について研究する。

また、運動の日常化を図るために、小体連だよりを発行し、体育科学習だけでなく、昼休みにも取り組めるような運動を紹介していきたい。

以上のことから、授業の中で課題解決の方法を児童が主体的に考え、自らの伸びを実感することで、子どもたちが成就感や達成感を味わい、運動の楽しさや魅力を感じるができると考え、本主題を設定した。

3 研究仮説

体づくり運動を通して、運動することの楽しさや心地よさを味わい、自らの伸びを実感できるよう、学習指導過程を工夫し、個々に応じた課題解決の場を設定すれば、児童は、運動に進んで取り組み、楽しさを味わうことができるであろう。

4 研究の内容

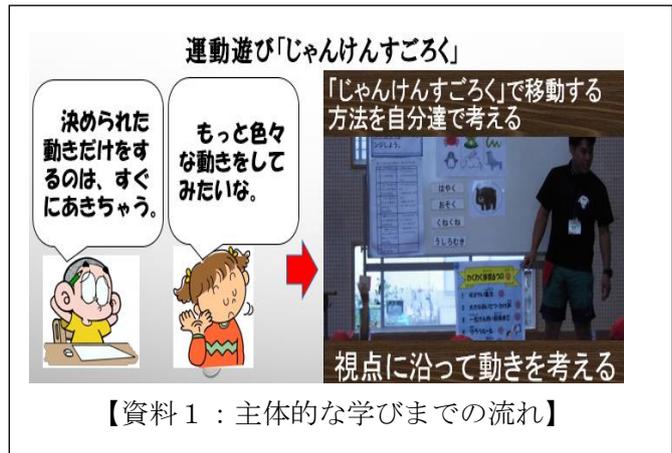
- (1) 児童が進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方
 - 主体的な姿を実現するための工夫
 - 運動条件を工夫するための手立て
 - 板書の工夫
- (2) 運動の日常化や指導方法の工夫につながる情報発信の在り方
 - 小体連だより「なかま」の作成・発行

5 研究の実際

(1) 児童が進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方

① 主体的な姿を実現するための工夫

2年生の学級で研究を行った。低学年の実践ということで、まず初めに運動遊びを何にするかを考えた。今回は運動遊びを「じゃんけんすごろく」に設定することにした。この運動遊びをする際の児童の思考として「決められた動きをするのは、すぐにあきてしまう」「もっと色々な動きをしてみたい」という思いをもつのではないかと考えた。そこで「じゃんけんすごろく」で移動する方法を自分たちで考えること、自由に考えるのではなく視点に沿って考えるような計画を立てた。そうすることで、主体的な姿を実現させるようにした。



【資料1：主体的な学びまでの流れ】

② 運動条件を工夫するための手立て

ア 低学年での実践

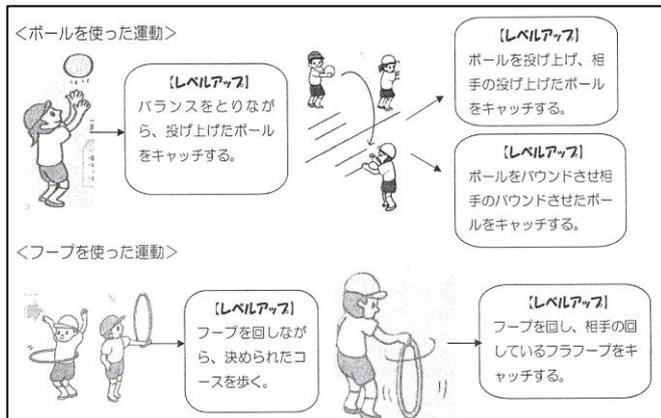
運動条件を工夫しやすく、考えやすいように、グループに1枚ホワイトボードを準備した。動きをいきなり工夫するのは、難しいと考え、動きの基になる動物を選択させるようにした。【写真1】のグループはへびを選んでいる。次にその動物の動きを工夫するために、いくつかの動きの視点を与え、選べるようにした。遅く、後ろ向きなど速さ、方向、姿勢を選べるようにした。最終的にどのような動きの動物になるかを書くようにした。ここでは、速く動いて、転んだへびをやろうと決めている場面である。このように細かい手立てを準備することにより、低学年の段階でも、運動条件を工夫することができた。



【写真1：運動条件の工夫を話し合っている様子】

イ 中学年での実践

4年生の研究授業では、運動条件を工夫しやすいように、スモールステップで動きの難易度を上げていくような学習計画【図2】で行った。児童が手元に持っているワークシート【図1】には、基の動きからレベルアップさせるための方法を載せるようにした。そうすることで、何でもありの運動条件の工夫ではなく、ねらいの意図に沿った工夫を考えることができた。



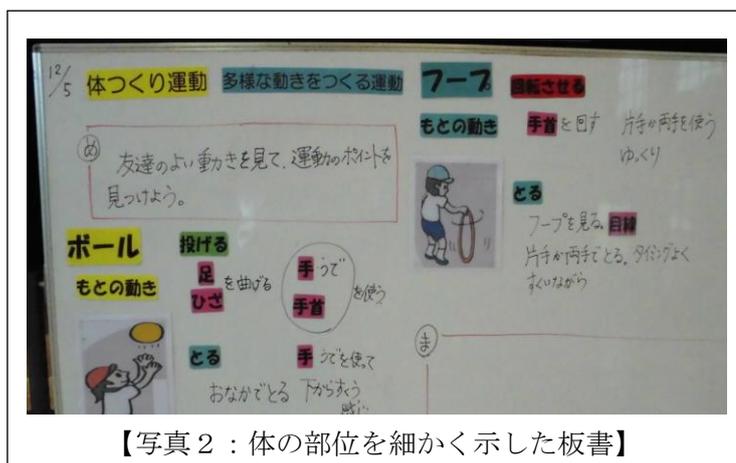
【図1：ワークシートの一部】

時間	1	2	3	4 (休憩)	5
0	整列・あいさつ				
2	準備運動を行う。	① ストレッチ ② サイドステップ、スキップ、大股走り、ダッシュなど柔軟性を高めるための運動			
3	場や用具の準備				
4	オリエンテーションをする。 ・ 字音のねらい ・ グループ編成	4 動きを組み合わせた運動を行う。 ① ボール ・ 投げ上げたボールをキャッチする。	4 用具を確保する運動を行う。 ① ボール (バタ) ・ 投げ上げたボールをキャッチする。 ・ パウンドさせたボールをキャッチする。	4 動きを組み合わせた運動を行う。 ① ボール (2~4人) ・ 投げ上げたボールをキャッチさせた相手のボールをキャッチする。	4 動きを組み合わせた運動を行う。 ① ボール (2~4人) ・ 回転させた相手のフープをつかむ。 ② フープ
5	用具の操作する運動を行う。 ① ボール ・ 投げ上げたボールをキャッチする。	② フープ ・ フープを体の一部を使って回す。	② フープ (バタ) ・ 相手が回転させているフープをつかむ。		
30	② フープ ・ フープを体の一部を使って回す。 ・ フープを回転させてつなぐ。				
40					
45	6 振り返りを行う。 ・ 学習カードによる振り返り				
5					5 ボールやフープを使ったゲームに取り組み。 ① ボールバランスゲーム ② フープ回転リレー

【図2：単元計画の一部】

③ 板書の工夫

「分かる楽しさ」を味わうために板書の工夫を行った。友達のよい動きを見付ける際に、何がどのようになっているから成功したのか、失敗したのかを分析できるように、体の部位に着目するようにした。どの部位がどのようになっていけばよいのかを板書の中で確認できるように、足・膝・手首・目線など細かく示しながら板書するようにした。



【写真2：体の部位を細かく示した板書】

(2) 運動の日常化や指導方法の工夫につながる情報発信の在り方

- 小体連だより「なかま」の作成・発行
昼休みや放課後、家庭でも取り組めるような運動を紹介した。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

- ワークシートやオリエンテーション、運動遊びの取り上げ方を工夫することで主体的に進んで運動に親しむ姿を実現できた。
- 運動条件を工夫する手立てを検討することで、体づくり運動を通して学習を楽しむことを具現化できた。
- 視覚的に分かりやすい情報を準備することで、児童が考えを伝える際や動きを見る際の視点を整理することができた。

(2) 課題

- 基になる動きの系統性を整理する必要がある。
- 新しい学習指導要領が完全実施となるため、評価について見直していく必要がある。